

# 琉球大学学術リポジトリ

復帰準備（対内）（政府調査団派遣等）－防衛庁、  
防衛施設庁－(3)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-01-29 キーワード (Ja): 復帰準備, 防衛庁, 沖縄調査団, 試射場 キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43393">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43393</a>

山上防犯施設を長官、訪沖

秘  
無期限

アメリカ局長  
参事  
安全保障課長  
北米第一課長

防衛施設庁長官の訪沖に因り  
琉球新報の報道につき

45.5.21  
米北

山上防衛施設庁長官が6月中旬沖縄  
を訪問する旨の5月19日付琉球新報

記事(右取組)に於て、21日同庁  
長官の訪沖に際し、照会したところ

下記のとおり、同記事は概ねの通り  
なり。Y-2も不明との由である。

山崎長官。

記

GA-5

外務省  
1063

1. 山上長官の訪沖計画は現在のところ  
何となく進んでいる。嘗て3月頃、長官

は訪沖に現地事情を直接把握し  
たいとの意思を示した。2日間の

日程の計画を造りかかるといふことが  
国会等の関係もあり取りやめた経緯

がある。結局の所は今の段階を過ぎ  
たに過ぎない。

2. (中略防衛施設庁長官の訪沖につき、米北  
記事の論拠は以下の通り)

中略長官の訪沖計画は1955年11月に  
なされた。米(陸海空)を中心として(佐官

32人の人とある)に、これに米軍の内部の  
部員及び防衛施設庁のスタッフを加え、自

GA 6

外務省

衛隊機、この沖つと計画がある  
と計画している。二ヶ月復帰後、自

衛隊の沖縄への展開計画を案出した  
のが主目的で、防衛施設庁は之が

時期尚早であるとの消極的であり、防  
衛部は参加しない（建設部は1名参

加するがそれ以外）方針である。

防衛施設庁長官も来月訪沖  
雇用形態などで懇談

【東京】防衛施設庁長官は、このほど来月中旬にも沖縄を訪問することを明らかにした。また中曽根防衛庁長官も国会終了後の訪米途中、訪沖を三回以上はしていることから、あけ前後して防衛関係のトップ・クラスが沖縄を訪れることになるであろう。

防衛施設庁では、沖縄の海軍補給基地の重基地、雇用関係などの事務を一手に引き受けることとなるため、その四月には本土に赴く。この四月には本土政府としてはじめの沖縄普査調査団を立ち上げ、その報告もほとんどまとまった。そのため、山土長官としては、渡洋後の沖縄防衛施設関係の普査、土地契約、雇用形態の切り替え、基地の整理統合などに備えて、現地関係者と懇談するため訪沖を決めた。

なお、沖縄基地調査の報告は、今月末に発表される。

48.5.19 (1) 琉球新報 (1面)

三  
月  
九  
日